2．血管運動性鼻炎に対するBeclomethasone dipropionate nasal sprayの臨床的検討

斎藤洋三、長谷川誠（東医歯大）
竹田英子（東京逓信病院）

〔目　的〕：Beclomethasone dipropionateは1964年英国Allen & Hanburys社において局所抗炎症作用が著しく、全身作用の少ない外皮用の合成副腎皮質ステロイドとして開発された。すでに奥田らは著者らが参加した一般および二重盲検試験において鼻アレルギーおよび血管運動性鼻炎に有効であることを報告している。今回、我々は血管運動性鼻炎について更に症例をかさね、若干の知見が得られたのでその成績を報告する。

〔方　法〕：対象は昭和51年9月から12月末および昭和53年10月から昭和54年1月末の間に通年性の反復性くしゃみ発作、水性鼻漏、鼻閉を主訴として当科を受診し、問診ならびに奥田の診断基準により、アレルギー検査（皮内反応、鼻誘発反応、鼻汁中好酸球測定）のすべてが陰性であるいわゆる血管運動性鼻炎の患者25例を対象とした。使用薬剤は携帯に便利な小容器に収納され、1噴射あたり50μgのBeclomethasone dipropionateを定量噴霧する鼻内噴霧用エアゾール剤で、新日本実業(株)ならびに日本グラクソ(株)より提供された。投与法は1日4回（朝、昼、夕方ならびに就寝前）2週間投与した。なお、1回あたりの投与は両側鼻腔に各1噴霧であり、1日の投与量は8噴霧（400μg）である。検討方法は投与前および投与後の各一週間に薬剤無投与の期間を設け、それぞれ導入期間および追跡期間とした。この間、患者には自覚症状、副作用、薬剤使用状況、併用療法等について毎日、患者日記を記入させた。また、各期間中、鼻鏡検査を行い一般臨床検査（血液検査、肝ならびに腎機能検査等）ならびに血漿コルチゾール濃度についても投与前後に、前者では10例、後者では22例について検討した。

〔結　果〕：

1．総合効果は著効10例(40.0%)、有効6例(24.0%)、やや有効4例(16.0%)、無効5例(20.0%)であった。
2．症状別効果では鼻汁の性状、粘膜色調を除いた鼻症状ならびに鼻粘膜所見において症例の70～83%に改善がみられた。
3．効果は25例中19例(76%)では1週間以内に認められ、このうち9例では3日以内に効果の発現を認めた。また、投与中止1週後の鼻症状は25例中21例で導入期間に比べて改善し、このうち18例では投与終了時と同等もしくはそれ以上の効果を示し、本剤の効果が少なくとも1週間は持続することを認めた。
4．患者の印象でも、医師判定と同様の成績を得た。
5．本剤1日400μg 2週間の投与では副腎皮質機能に影響を与えず、一般臨床検査にも特記すべき異常を認めなかった。

〔考　察〕：鼻の自律神経失調を基盤とし非アレルギー的機序により発症するものと思われる血管運動性鼻炎への副腎皮質ステロイド剤の奏効機序は不明であるが、血管運動性鼻炎に対する適切な治療の少ない現況では、本剤は優れた治療効果を示し、1日400μgの鼻内噴霧では全身作用を示さず、比較的安全に使用できる薬剤であると考える。

〔文　献〕：

1）奥田　稔、他：Beclomethasone Dipropionate(SN 105)局所噴霧による鼻アレルギー、血管運動性鼻炎の治療．耳鼻臨床70：1583～1602，1977．
2）奥田　稔、他：鼻アレルギーに対するBeclomethasone dipropionateエアゾール剤の二重盲検法による臨床的検討．

耳鼻臨床71：977～1004，1978.
3）斎藤洋三、他：血管運動性鼻炎に対するBeclomethasone dipropionate nasal spray(SN 105) の臨床的検討.耳展第22巻補冊4号.1979.